

一般事項

共通仕様

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下「標仕」という。）による。
構造計算ルート： X・Y方向ルート — (3)

使用材料

鉄筋径の表示		鉄 筋		コンクリート		
		材 質	継手工法	設計基準強度	スラブ	材質指定
● D10	捨コンクリート			発注強度=18N	15	セメントの種類 普通ポルトランドセメント
×	ラップ・ルコンクリート			発注強度=18N	15	骨材の種類 川砂、川砂利、砕石
× D13	基礎壁、耐圧スラブ		重ね継手	Fc24	15	粗骨材の最大寸法 25mm
○ D16	基礎梁、基礎柱、基礎小梁			Fc24	15	混和剤 高性能AE減水剤 標準型
● D19	最下階スラブ	D16以下	D16以下	Fc24	15	無塩化タイプ 使用の事
○ D22	各階柱、壁	SD295A	重ね継手	Fc24	18	（壁中コンクリート打設時は遅延型使用）
○ D25	各階大梁、小梁	D19以上	D19以上	Fc24	18	1Fスラブ 以下は水密コンクリートとし、
× D29	各階スラブ	SD345	圧接	Fc24	18	W/C≦55%とする。
○ D32	押えコンクリート	D29		発注強度=18N	15	（ラップ・押えコンクリートは温度補正は不要と
	土間コンクリート	SD390		Fc18	15	し、水密コンクリート W/C≦55%は適用しない、
	設備架台関係コンクリート			Fc21	15	また、混和剤はAE減水剤とする。
	デッキ・レート上コンクリート			Fc21	15	捨コンクリートも同様とする。）

「コンクリート強度試験の方法、調合及び養生方法」等は、標仕6章の規定による。

鉄筋圧接完了後の抜き取り試験（標仕5.4.9（2）） ☒ 引張試験 ☐ 超音波探傷試験
（監督員の承諾を得た場合、超音波探傷試験とすることも可とする。）

鉄筋の常用かぶり厚さ

		部 位			設計かぶり厚さ		最小かぶり厚さ	
		土に接しない部分	床スラブ	屋 内	30		20	
			屋根スラブ	屋 外	40		30	
			非耐力壁					
			柱	屋 内	40		30	
			梁	屋 外	50		40	
			耐力壁					
		基礎・擁壁・耐圧スラブ			50		40	
		煙突内面			60		50	
		土に接する部分	柱・梁・壁・連続基礎の立上り部分		50		40	
			床スラブ		50		40	
			基礎・擁壁・耐圧スラブ		70		60	
			煙 突		70		60	

鉄筋の折曲げ要領

末端部	折曲げ角度	折曲げ図	種 類	折曲げ内径のり直径（D）	
	180°		SR235	3d以上	
	135°		SD295A SD295B SD345	D16以下 : D19～D38 :	3d以上 4d以上
	90°		SD390	5d以上	

中間部	折曲げ角度	折曲げ図	使用箇所	種 類	径	折曲げ内径のり直径（D）
	90°以下		帯 筋 あばら筋 ハ・イ・Ⅲ筋	SR235	16φ 以下	3d以上
				SD295A	19φ 以上	4d以上
SD295B						
SD345						
			上記以外	SD235 SD295A SD295B SD345 SD390	16φ 以下 19φ～25φ D19～D25 28φ～32φ D29～D38	4d以上 6d以上 8d以上

定着・継手の常用長さ（構造計算ルート3以外のL1・L1hは表値かつ40d以上とする）

鉄筋の種 別	設計基準強度	フックなし		フックあり				投影定着長さ	
		L 1	L 2	L 3		L 3 h		L a	L b
				小 梁	床 版	L 1 h	L 2 h		
SR235	18					45d	45d		
	21					35d	35d		
	24							25d	150mm 以上
SD295	18	45d	40d			35d	30d	10d	20d
	21	40d	35d	20d	10d かつ 150mm	30d	25d		15d
	24, 27	35d	30d	片持ち		25d	20d		15d
	30, 33, 36								
	24, 27	40d		25d	片持ちスラブの場合 25d	25d	20d	10d	20d
	30, 33, 36	35d	30d			35d	30d		15d
SD390	21	50d	40d			35d	30d	10d	20d
	24, 27	45d				30d	25d		20d
	30, 33, 36	40d	35d						15d

L a: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ、L b: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
注) ただし、柱に取り付ける梁の引張り鉄筋は、柱の主筋に接続する場合を除き、40d以上とする。

継手間隔

重ね	0.5L ±100以内	重ね	0.5L 以上	圧接	400以上※1

1ヶ所に集中させない事

※1：試験箇所抽出後、再圧接の場合は除く

重要事項

本工事に於いて、ひび割れ防止並びに健全なコンクリート躯体打設のため、下記に示す事項を適用する。

1. コンクリート調合計画で、強度を確保した上で水化熱及び水用量を極力減らす。
2. 躯体コンクリートには、高性能AE減水剤を使用する。
3. 躯体コンクリートには膨張性混和剤デンプンCSAを混入する。
(混入量 メーカー標準量を基本とする)
4. コンクリート打設後5日間以上はコンクリート面を常時湿潤状態に保つ。
上面P.P.むしる掛け、継続的に散水養生。
型枠面も継続的に散水し、乾燥を防ぐ。
5. 上記養生を考慮した工程計画をたてること。
6. 打設したコンクリート上面は、全面金ゴテ押さえとする。(沈み割れを防ぐ。)
(柱内・壁ダブル配筋の間もきちんと押さえる。)
7. 打ち継ぎ面は周囲より高めに打ち押さえ、その部分をコンクリート打設翌日の午前中に高圧水洗処理(40kg/cm²以上)により打ち継ぎ面処理を行う。
(打ち継ぎ面に水溜りを作らず、かつ、健全なコンクリート面を露出させる。)
(寒冷時等、水の使用による悪影響が懸念される場合は、はつり仕上げとする。)
8. 各柱型枠脚部に1ヶ所、壁型枠脚部に@900ごとに、排水、兼 掃除、兼 点検口を設ける。
9. コンクリート打設時において、適切な時間が経過した段階で再振動を行い締め固める。

地 業

	A	B	C	
			割栗石	敷砂利厚及び材料
一般の基礎	100	50	—	100 切込碎石
軽微な基礎	—	30	—	100 切込碎石
基礎梁下端	—	50	—	100 切込碎石
土間コンクリート下	—	—	—	100 再生クワシヤン
土間スラブ下	—	—	—	100 再生クワシヤン

砕石はクワシヤン70～40mm程度とする

基礎梁との段差補強

杭基礎の場合

スラブ

定着

スラブ筋の定着長さ及び受け筋

※L2hを確保出来る場合はこの限りではない

(その1) (その2) 耐圧スラブの場合

(イ) (ロ) (ハ) 一般スラブの場合

段差部分配筋 H≦150

(a) 段差が70mm以下の場合

(b) 段差が70mmをこえ、150mm以下の場合

継手位置 (耐圧スラブは除く)

建物隅角部の補強 (最上階)

片持スラブ入隅部の補強 (各階)

開口補強

片持スラブ出隅部補強

配筋の定着

バースト配置要領

穴について

バーストは上端筋の下側筋、下端筋の下側筋を支えるように、@900程度に配置すること。(鋼筋使用の事)

バーストは上端筋の下側筋、下端筋の下側筋を支えるように、@900程度に配置すること。(鋼筋使用の事)

バーストは上端筋の下側筋、下端筋の下側筋を支えるように、@900程度に配置すること。(鋼筋使用の事)

鉄筋の定着の方法

定着の方法は右図による。

なお、梁主筋の柱内定着において、横に折り曲げて定着する場合は、右図(ロ)に示すように柱せいの3/4倍以上のみ込ませる。

ただし、折り曲げた先の直線部の長さが10dに満たなくなる場合は、監督職員と協議する。

監督職員と協議し認められた場合、機械式定着を用いる事が出来る。

定着の長さ

フックなし (イ) 直線定着 フックあり (ロ) 直線定着 柱せいの3/4倍以上 フックなし (ハ) 折り曲定着

梁・基礎梁

定着・継手

(基礎梁-独立基礎で床版がつく場合)

(基礎梁-連続基礎の場合)

梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合、下端筋は曲げ上げる(一般の場合)。やむを得ない場合は、監督職員の承認を受けて、曲げ降ろすことができる。

※ L2hを確保できない時は()内の定着寸法とする。ただし、柱せいの3/4以上とする

また、余長は8d以上とする

(一般階大梁及び独立基礎で床版のつく基礎梁の場合)

(大梁-最上階)

※ L2h, L3hを確保できない時は()内の定着寸法とする。

※ L2h, L3hを確保できない時は()内の定着寸法とする。ただし、柱せいの3/4以上とする

(小梁)

(片持梁)

主筋の全数を引き通せる場合でも、上端筋は2本以上柱に定着する。

※ L2h, L3hを確保できない時は()内の定着寸法とする。ただし、柱せいの3/4以上とする

(継手・小梁)

(片持梁)

壁

継手位置

土圧を受ける壁

定着

柱中心線を超え

壁筋がフック・スターラップの外側に納まる場合は壁筋に90°フック(L=150)を設ける事

端部 (垂直及び水平断面を示す)

ゲブM配筋の場合

シグM配筋の場合

適用範囲: そで壁、及び特記ある場合

隅角部

(別図に特記ある場合は当該特記による)

1-D13

2-D13

1-D13

2-D13

定着方向は、両向き交互すること

開口補強

W0又はH0が2000を超える場合

W0<2000かつH0<2000の場合

梁貫通孔の補強

梁貫通孔の補強は既製品による。(ウエブレン、リンプレン、ダイアレン他同等品)

[illegible]

宮本・仲條設計共同企業体 一級建築士事務所（長野）L 第43221号	飯山市	設計者 一級建築士登録 第175870号 山田 将光		飯山市城北中学校区新統合小学校整備事業	DATE	2023. 03	JOB NO.	2 5 2 0
		構造設計一級建築士 第1981号 関田 政道			JOB NAME	SCALE A1	—	PART
		DRAFTER	CHECKER	SHEET NAME	標準配筋図	SCALE A3	—	SEET NO.